

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 9月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	4074500259
法人名	医療法人社団 宗正会
事業所名	グループホーム すまいる
所在地 (電話番号)	福岡県福津市高平 11 - 15 (電話) 0940 - 42 - 1708

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年10月20日

情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 11月 5日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	6人, 非常勤 3人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	平屋 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (135,000 円)	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100 円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護 1	3 名	要介護 2	3 名		
要介護 3	1 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅街の中に位置している当ホームは、木造平屋造りで周りの建物と調和しており違和感を全く感じさせない。地域の中で支えられながら生活出来るホームとなるように、地域の行事には積極的に参加したり、逆にホームの行事に地域の人たちに参加してもらったりしながら、地域との交流を図っている。最近では、「すまいる体操」と称して、座って出来る体操教室を開催し、近所の方にも喜ばれている。また、利用者が「安心 安全 安楽」に、職員と一緒に楽しく過ごしてもらえるようなホームを目指して、常にサービスの質の向上を図っている。実際に入居している利用者の表情も皆穏やかで、時にはホーム内に笑い声が響いており、管理者や職員の思いが伝わっていることを肌で感じる事が出来た。

重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では、地域との連携が改善課題であったが、今年は、今まで以上に行事への参加やホームへ招く機会等を増やし、地域との関わり合いが持てるよう心掛けている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、項目毎にそれぞれの職員で振り分けて記載したものをまとめて、全職員で内容を検討しながら作成した。昨年の評価の改善点についても、全員で検討して、改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	民生委員や市の職員、地域包括支援センターの職員、家族会の会長、母体病院の院長、看護部長等が出席して開催しているが、今のところ3ヶ月に1回しか開催していない状況である。運営推進会議は、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であるので、開催回数ももう少し多く待ち、集まってもらう機会を増やしていくことが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	3ヶ月に1回、家族会を開催しており、ほぼ全家族が参加される状況で、それぞれが気軽に意見を出せる場として提供している。また、直接言いにくい方のために、玄関には意見箱も設置している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りや草取り等に参加して、地元の人々と交流することに努めている。近所に散歩に出掛けた際には、お互い挨拶を交わしたりする様な関係も出来つつある。しかし、自治会に参加したいと考えてはいるが、今のところ出来ない状況である。今後も地域に対するアプローチを続け、さらに良い関係を築くことが出来るように、働きかけをおこなっていくことが求められる。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	安心 安全 安楽」という言葉を理念に盛り込み、利用者の日々の暮らしを支えている。特に今年からは地域との関わりを持つように心がけているが、理念の中にホームと地域との関係性や利用者の地域生活の継続性が盛り込まれていない。	○	理念の中に、ホームが果たすべき役割や地域の中でその人らしく生活することを支えるケアの具体的なイメージを盛り込んだものを作成することによって、利用者や地域に向けて、ホームの基本方針を理解してもらおう材料にもなるのではないだろうか。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる			
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや草取り等に参加して、地元の人々と交流することに努めている。近所に散歩に出掛けた時には、お互い挨拶を交わしたりするような関係も出来つつある。		自治会や町内会に参加したいと考えてはいるが、今のところまだ参加出来ない状況である。今後も地域に対するアプローチを続け、さらにより関係を築くことができるように、働きかけを継続して頂きたい。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、項目毎にそれぞれの職員で振り分けて記載したものをまとめて、全職員で内容を再検討しながら作成した。昨年の評価の改善点についても、みんなで検討して、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や市の職員、地域包括支援センターの職員、家族会の会長、母体病院の院長や看護部長等が出席して、開催しているが、今のところ6ヶ月に1回程度しか開催していない状況である。	○	運営推進会議は、外部の人々の目を通して事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であるので、開催回数ももう少し多く持ち、集まってもらう機会を増やしていくことが望まれる。

グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催するイベントへの参加依頼があれば、積極的に参加したり、キャラバンメイトの参加の依頼を受け職員が参加したりし積極的に連携を図っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	母体病院にて開催される研修を受講したり、資料やパンフレットも常備しており、制度についての知識を深めている。		
4.理念を实践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	頻りに面会に来られる家族が多いため、面会時に利用者の状態を報告するようにしている。またホーム便りも作成して配布している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1回、家族会を開催しており、ほぼ全家族が参加される状況で、それぞれが気軽に意見を出せる場として提供している。また直接言いにくい方のために、玄関には意見箱も設置している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今のところ、職員の離職や異動はほとんどない。もしその場面が出てきても、引継ぎ等おこなって、利用者との馴染みの関係を保てるようにしないと、いけないと考えている。		

グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、その人本人の資質やグループホームに向いているかどうかというところを重視しており、年齢や性別、資格等で採用から排除することはない。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>母体病院で行われている研修に参加したり、社会福祉協議会での研修を受講する等、職員に対する人権教育には積極的に取り組んでいる。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修には積極的に参加を促している。職員が交代で参加し、ホーム内で伝達講習を行い、情報の共有を図っている。また内部研修についても法人内・グループホーム内それぞれの年間計画を作成し、それに沿った形で定期的開催している。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協議会（Bブロック）に入会しており、2ヶ月に1回、事例検討や他のグループホームを見学する等、同業者同士でのネットワークは出来ている状況である。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>法人内のケアハウスや病院から移ってくる利用者が多いが、その他の場合も、ホーム側から面会に行ったり利用者や家族に事前に見学に来てもらい、雰囲気を覚えてもらった上で入居を決定するようにしている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>本人本位ということとを大事にし、何にでも手を出すのではなく、出来ることはやってもらったり利用者得意なことを教えてもらったりしながら、共に支えあう関係を構築している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>声かけの機会を多く持ち、その人の思いや意向を引き出す心がけている。意向の把握が困難な利用者もいるが、普段の何気ない会話の中から、思いや意向が汲み取れるように心がけている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ICFを活用しており、それぞれの担当者と計画作成担当者が話し合いながら計画を立てたものを、職員全員で確認している。家族の意向についても面会時等に確認しており、作成後は必ず提示している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>少なくとも6ヶ月に1回は計画の見直しを行うようにしている。モニタリングは3ヶ月に1回行っており、その時点で変化があった場合には、その都度計画の変更や追加等行っている。</p>		

グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人にとって、現状、どのようなことが必要なのかを考えながら、状況に合わせて支援している。受診の介助や買い物等、臨機応変に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況に応じて、家族に元々のかかりつけ医への受診介助をしてもらうこともあるが、ほとんどの利用者がホームの母体病院の受診を希望しているため、受診には家族と職員の両方で付き添い、利用者の状況の把握に努めている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についての指針を作成しており、普段より家族とはその話をする機会も多い状況である。実際にその状態になられた場合、かかりつけ医をはじめ、家族とも話し合いながら対応している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対する職員の言葉かけや対応は、ゆっくりと穏やかに行われており、プライバシーを損ねるような場面は見受けられない。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて、決して無理強いはいはしないように対応している。起床時間や就寝時間、食事の時間等もなるべくそれぞれの希望に沿うようにしている。		

グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれが出来る範囲で関わりを持ってもらうようにしている。利用者と職員が同じテーブルで同じ食事を摂りながら、ゆったりとした食事の時間を楽しんでいた。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴可能である。時間帯は一応決めてはいるが、利用者の状況や希望に合わせて臨機応変に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が出来ることが、いつの間にかそれぞれの役割となっており、掃除やお茶入れ、野菜切り等、職員が誘導しなくても、それぞれが自然と行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	それぞれの希望を聞きながら、散歩や買物等に出掛けている。また時にはデイケアの行事に参加したりドライブにも出掛けることもあり積極的に戸外にでる機会を持っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関については、鍵をかけないようにしており万が一外に出られることがあっても、ドアにセンサーをつけているため、その音でわかるようになっている。門扉の鍵は利用者の状況に応じて、対応している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っている。その際、夜間を想定した訓練も行い、いざという時に備えている。しかし、地域の協力を得るための働きかけまではおこなっていない状況である。	○	職員だけの誘導の限界を踏まえて(特に夜間帯)地域住民の協力が実際に得られるように、日頃から話し合いを行い、一緒に訓練を行う等の取り組みを行っていくことが求められる。

グループホーム すまいる

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体の病院の栄養士が献立を作成しているため、栄養のバランスは取れている。また、食事や水分の摂取量もチェック表に記載するようしており、それぞれの状態に応じて支援している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を飾ったり、タンスやテーブル、装飾品も一般の家庭にあるようなもので揃えられており、心地よく過ごせる空間作りがなされている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には、好みのものや使い慣れた家具、人によっては仏壇等も持ち込まれており、自宅にいる感覚で居心地よく過ごせる空間づくりがなされている。		